

# シリーズ 景観76

## うが 宇賀橋

「みんなで残したい松江の景観400選集」から  
景観審議会が特にお薦めする景観

No.255

市は「住むひとが誇りと愛着を感じ、訪ねるひとの心に残る松江の景観づくり」を推進しています。



「松江の橋の中では松江大橋に次ぐ観光スポットかも知れません。橋の向こうに松江城が見える景観は、堀川遊覧船からも、陸上からも松江らしさを感じさせてくれます」と推薦いただきました。

普門院周辺からこの宇賀橋までの堀川に面する両側の道路一帯は、昭和50（1975）年に普門院外濠地区として松江市伝統美観保存地区に指定されています。宇賀橋は、松江歴史館横の内堀に架かる橋で、近くの北堀橋改修時に仮橋として架けられたものが歩行者専用として残されたもので、別名「仮橋」とも呼ばれています。

名前の由来は、築城の際に現在の松江城がある亀田山と赤山の間を宇賀山を掘削し、ここに内堀と武家屋敷街（現在の塩見縄手）を造ったこと

から宇賀山にちなんでつけられたと言われています。

最近の研究でも「赤山と城山はもとひとつ続きの陵線で山というより丘陵であり、宇賀丘陵とも呼ぶべきものだった」（著者・西島太郎「松江・城下町ものがたり」とされています）。

堀川にはたくさん橋が架かっていますが、宇賀橋は最も風情のある橋の一つであり、国宝松江城の東北部の散策コースの主要ルートとして、たくさん観光客が行き来し、シャッターを切る姿がみられます。秋には紅葉した城山の木々を背にして素晴らしい景色を見ることができます。

子どもからお年寄り、来訪者にも心地よいまち、くらしと歴史が共存するまちの財産として未来に継承していきたい松江の景観のひとつです。

「みんなで残したい松江の景観400選集」は、市ホームページでご覧いただけます。

【問い合わせ】 まちづくり文化財課 ☎55-5387

松江の景観400選

検索